

天然忘の茶

- お茶湯
- 花所望
- 聞香
- 濃茶
- 薄茶



掛物 円窓



花入 青磁サン木



香合 薬王院山門古材

〔掛物〕 「円窓」 大剛和尚

〔花入〕 青磁サン木

〃 竹尺八

花 「芙蓉」「むくげ」「縞芦」「水引」「祇園守り」

「日光」「金水引」「襖萩」「萩」「ススキ」

「ホトトギス」「秋海棠」

〔香合〕 薬王院山門古材

〔炭斗〕 平

〔風炉〕 土風呂



風炉 土風呂

〔釜〕 こしき口釜

〔棚〕 竹台子 一つ飾り

〔水指〕 細水差 備前 兼中斉宗匠箱



水指 備前

〔茶入〕 瀬戸肩付 即中斉宗匠箱

仕服 金剛金欄

〔茶碗〕 御紋茶碗

替 安南写 || 真葛作

〃 薩摩弘子紋 || 陶正山作



茶碗 御紋茶碗



茶碗替 安南写



茶碗替 薩摩弘子紋



茶入 瀬戸片付

〔茶杓〕 「閑不徹」 大徳寺雪窓

〔薄茶器〕 アコダ 兼中斉宗匠判箱 || 山中製

建水 伝来写 エフゴ

蓋置 夜学 薩摩焼 || 陶正山作

〔菓子器〕 萩木瓜型 而妙斉宗匠判箱

〔干菓子器〕 而妙斉宗匠筆富士

菓子 「月下の宴」「初瀬の錦」「うずら餅」

「栗蒸羊羹」「栗粉餅」

干菓子 「紫野」「松風」

濃茶 猶有斎好 「楽寿の昔」 || 柳桜園

薄茶 猶有斎好 「清友の白」 || 柳桜園



薄茶器 アコダ



蓋置 夜学



干菓子器 而妙斉宗匠筆富士

竹台子 一つ飾り

● 如心斎の考案の竹台子一つ飾り

【お茶湯】 内々のことにて客一名茶道口より入り客畳

半畳上がった所に座す

にじつて天目を取り次ぎに出る

亭主自ずからお供えすることもあり

【花所望】 水次は上から半月に持つて用いる

【聞香】 香づつみ 毎回新しい物を作って用いる

(奉書にて)

